

大東文化歴史資料館だより

第17号 2014. 11. 30

大東文化大学の歩んできた道のりをいかに捉え描き出すか — 百年史へ向けての特色と課題について考える —

歴史資料館運営委員 谷本 宗生



2014年10月、私谷本宗生は大東文化大学東洋研究所特任准教授として採用され、大東文化歴史資料館に出向勤務し、これから本学百年史の編纂に向けてその特色と課題を考える役割を担っている。古川陽二歴史資料館館長は、『大東文化歴史資料館だより』第10号（2011.5.31）の巻頭言で、本学が2023（平成35）年に創立百周年を迎えるにあたって百年史編纂の意義について、「①大学の個性の確認、②アカウンタビリティの履践、③大学評価における大学沿革史の項目化、④情報公開法への対応、⑤自校史教育への活用」を資料館運営委員会で確認したと述べている。さらに、本学の「五十年史、七十年史の成果よりもむしろ、問題点を厳密に総括していくことが求められる」と率直に指摘している。そのいっぽうで、作家井上ひさしさんの格言「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」を例に挙げながら、本学の歩みと現状が分かりやすく把握できる『小史』の発行を提起されている。

2013年の本学創立90周年を迎えるにあたって、歴史資料館が本学記念事業の一環としてブックレット版の『大東文化大学の歩んできた道』（2013.9.20）を編集刊行した。浅沼薫奈・兵頭徹両氏によって、本学90年の歩み（通史）をコンパクトに分かりやすく纏めてある。同上書「あとがき」には、古川館長が「編者と読者との間の忌憚のないやりとりが百年史編纂事業の進展・深化に繋がっていくことを期待したい」（112頁）と真摯に述べている。私自身も長年にわたって教育史・学校史・自治体史に携わっているが、どれほど熱心に編纂執筆されたものであっても、完成後には必然的にまた新たな資料群の発掘や様々な多数の有益な評価知見を得て、それが修正されていく宿命をもつものであることを当事者として実感している。ただしそれはけっして残念なことではなく、歴史像の新たな追求となって未来へ向けての確かな歩みの指針・原動力となるであろうと考える。

2013年3月に惜しくも急逝されたが、生前に歴史資料館運営委員を務めた兵頭徹元教授は、百年史編纂事業へ向けての研究活動として百年史編纂をスムーズに実行させていくため、学内の兼任研究員や学外の兼任研究員らと共に「創設時の指導者」研究チームや「建学の精神」研究チームなどを組

織していることを『資料館だより』12号（2012.5.31）や13号（2012.12.10）で適宜述べている。「本学創設時の指導者たちが日本近代史の中で演じた役割を（批判的）に解明することを通して、建学の精神を再確認すること」などが重要であると挙げている。その言葉に示されたように、学内外の兼担兼任教職員の蓄積された知見によって、本学園の戦前・戦時下の詳細な動向については相応に明らかにすることが今や可能であろうと思われる。問題は私が着任してから、あらためて本学五十年史、七十年史、そしてブックレット版の90周年小史『大東文化大学の歩んできた道』を読んでみて、戦後の新制大学以降と戦前・戦時下の学園とのかかわりについて、きわめて本学の特色として重要なポイントが秘められているのではないかと率直に感じた点である。

もちろん今まで現存資料の制約もあるなかで、たとえば1949（昭和24）年4月の「東京文政大学」の認可、1951（昭和26）年2月の「文政大学」への改称、1953（昭和28）年4月の「大東文化大学」への改称、に至るまでの背景や事情については、五十年史、七十年史などでも相応に指摘はしてある。たとえば『大東文化大学の歩んできた道』では、「学制改革と新制大学の発足」という章を設けて、「新制大学は、一部は1948（昭和23）年度から、大多数は1949（昭和24）年度から実施されることとなった。では、旧制専門学校であった本学の、新制大学への移行はどのように行われたのだろうか。」（50頁）と、端的にそれを指摘している。ここからどうより拘っていくかが、百年史に向けての重要な課題といえよう。新制大学の設置審査委員会から、校名などの点について本学に再検討するようにもとめられたというが、設置審の関係資料（国立公文書館蔵）やCI & Eや占領軍軍政隊の関係資料（国立国会図書館憲政資料室蔵）などから、従前明らかにされていない何がしかの手がかりが得られる可能性もあるだろう。また「東京文政大学」「文政大学」「大東文化大学」の名称選定にあたっては、本学内でいかなる動きがみられたのか。たとえば五十年史では、1949年の「東京文政大学」名称決定に至るまでには「大東文化大学」と「東京文政大学」との2案が存在した（455頁）と記されている。また1953年の「大東文化大学」への改称にあたっては、「大東文化学院大学」と「大東文化大学」とで議論があった（455頁）と記されている。本学の校名改称という、きわめて重大な問題については、百年史編纂にあたってはより十分な資料確認・資料批判を行って明らかにしていきたいと思う点である。

従前刊行されている五十年史、七十年史などの「編集後記」でも、現存資料の制約を共通して挙げている。ただ翻ってみれば、五十年史や七十年史がその記述根拠とした出典資料の明記こそがまず重要ではないのかとつよく感じる。そして、百年史編纂の基礎作業の1つとして、五十年史、七十年史の主な出典資料の確認を行わなければならないだろう。

大東アーカイブス 第17回 企画展

『中国語大辞典』編纂と創立60周年記念事業

展示期間：平成26年12月12日(金)～平成27年3月31日(火)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

大東文化大学の創立記念事業の中でも、創立60周年関連は最も事業数が多く、式典を含め盛大に行われました。特に『中国語大辞典』編纂刊行に関わる事業は、最大規模の年数を費やしました。60周年を機として1982(昭和57)年から始まった編纂作業はおよそ12年間続き、正誤確認や再版などの事後処理作業を終えて以降、膨大な関連資料は学園内から移動されて板橋図書館書庫棟の収蔵室に置かれたままとなっていました。昨年度、その関連資料を処分することとなり、一部を学園関係資料ととらえ、歴史資料館(大東アーカイブス)へ移管することとなりました。

今回の企画展では、初期資料収集の様子や編纂過程を編纂方針などを示す資料とともに紹介し、一面の棚を席卷していた単語帳や初校ゲラ等を公開いたします。あわせて60周年記念事業の内容、60周年を迎えた1983(昭和58)年を前後する70年代～80年代の学園の様子等も紹介しています。

多くの皆様にご高覧いただければ幸いです。



◇『中国語大辞典』(全1巻・上下2分冊)は、大東文化大学中国語大辞典編纂室編として、1994(平成6)年3月に角川書店から出版された。B5版・上製箱入り、本文約4,200ページ、親文字15,000、見出し語260,000語に及ぶものである。

大東文化大学創立60周年記念事業として展開されたものであったが、1982(昭和57)年の編纂着手から実に12年有余が費やされた。編纂主幹は当時外国語学部中国語学科の香坂順一教授が務め、編纂の責任を負った。編集委員には学内外の研究者であった大原信一、芝田稔、萩尾長一郎、鈴木直治、井上隆一、伊地智善継、宮田一郎、服部昌之、原田種成、上野恵司、竹島金吾の諸氏が着任した。日本全国のみならず、中国全土の関係者に協力を求め、資料を悉皆的に収集し、時代性と地域性とを同時に配慮した事典刊行を目指し、集まった資料をもとに編集方針が改めて立てられ、学園側も刊行までに長期間かかることを考慮し、編纂刊行に向け人員配置や予算など全面的にバックアップした。まさに大東文化学園、編纂関係者、角川書店の三者が協力しあい、公刊されたものであった。

(歴史資料館運営委員 浅沼薫奈)

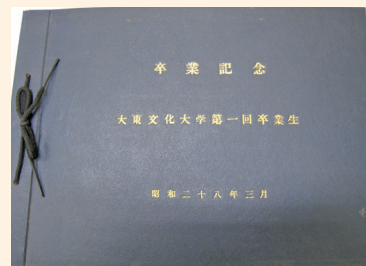
* 所蔵資料紹介 *

卒業アルバム『卒業記念 大東文化大学第一回卒業生』

1953（昭和28）年3月、大東文化大学第一回卒業式が行われました。卒業記念に配布されたアルバムは、池袋校舎全景と卒業生・教員の集合写真とが各1枚ずつはさまれただけのとても簡素なものでした。

旧制専門学校であった大東文化学院が「新制大学」となったのは、1949（昭和24）年のこと。名称は「東京文政大学」でした。その2年後に「文政大学」となり、さらに2年後に「大東文化大学」となりました。東京文政大学へ入学した一期生には大東文化学院からの進学者も含まれていたこともあって、「大東文化」名への強い愛着を抱く者が少なからずいました。その熱い思いが卒業の直前になって「大東文化大学」名称復帰を実現させ、「大東文化大学第一回卒業生」としてアルバムを胸に巣立っていったのです。

（歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）



<資料寄贈ご協力のお願い>

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関誌・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、ご連絡ください。

毎年、同窓生の方々から各種関係資料のご提供をいただいております。在学中の刊行誌、写真、体育祭・学園祭のパンフレットや記録など、とても貴重な資料です。アーカイブスでは同時に、関係者からの聞き取り調査も積極的に行っていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

<訂正>

第16号4頁「活動記録」2行目、「金山弘道氏」は「金山弘通氏」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

【大東アーカイブス活動記録】（2014年4月～2014年9月）

- | | |
|--|---|
| 4.1 板橋図書館より資料移管 | 6.3 学園所蔵周年記念事業関係資料移管、搬入 |
| 4.24 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会参加
(於：日本大学) | 7.14 板橋図書館書庫棟内所蔵資料移管、搬入
総務課・地域連携センターより資料移管 |
| 5.14 歴史資料館運営委員会会議 | 7.17 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会参加
(於：東京外国語大学) |
| 5.22 小山田弘之氏より資料受贈 | 7.28 徳丸研究棟3階工事説明会 |
| 5.26 企画展入替日 | 8.1 立教女学院、アーカイブス調査のため来館、対応 |
| 5.27 第16回企画展「初代大学長・土屋竹雨 東京文政大学と
その時代」公開 | 9.1 野田泉氏（本学同窓生・東亜政経科1期生）より資料受贈 |
| 5.29 全国大学史資料協議会東日本部会総会参加
(於：立教大学) | 9.25 全国大学史資料協議会幹事会、全国大会事前準備会参加
(於：明治大学) |